

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108645		
法人名	バンドーケアポート株式会社		
事業所名	グループホーム バンドー北欧の里		
所在地	秋田県北秋田市下杉字上清水沢15-1		
自己評価作成日	平成29年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着を心がけた行事の計画・実施に努め、又外出時にご希望を伺ったり懐かしむ場所への御案内に心がけている。地方新聞や広報を定期的に取り寄せ皆様に触れいただき話題の繁栄や共通に繋げられるよう活用している。全介護従事者が1・2名の入居者様を受け持つ「受け持ち制」とり、持ち物の管理を行い、カンファレンスの際は受け持ち介護者がケース検討時の司会を務め、ケアの方針を決めモニタリングの記録も手掛けている。管理者が看護師・計画作成担当者でもあり、北秋田市の福祉課企画の事業に参加協力し、医療関係者との接触に心がけ介護場面を理解していただけるように努力をしている。又本部より指導担当者をお互い二ヶ月一回リーダー会議の場を持ち事例検討や職員のスキルアップを図る等の情報交換をし現場の介護実践に役立てている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺に民家が少なく関係づくりが難しい環境の中で交流の場が持てるよう積極的に努力し、運営推進会議を通じて理解と協力が得られており、利用者の家族、職員の家族、地域住民が参加して敬老会や季節毎の行事を行って交流の機会が増えています。また、市民病院が近くにできたことによって周辺の道路が整備され、受診の帰りや車で通行する知人が立ち寄ってくれる機会も増えています。本人のペースで安心、安全な暮らしができるよう過干渉にならない支援に努めています。切り絵の得意な職員の見事な作品が季節に合わせて玄関やホールにセンス良く飾られています。写真にも残されておられ、職員の特技を活かした環境づくりがされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の「親孝行」を基に、事業所理念を「住み慣れたこの地域で笑顔を絶やさずいきいきと」掲げホーム内の掲示物にも「えがお」を強調し、職員内でもカンファレンスや申し送り時(申し合わせ)意識を高めると共に、地域の方との交流に心がけている。	カンファレンスで斉唱して理念の意識付けが図られ、笑顔が利用者の健康のパロメーターと考えて日々の生活の中で「えがお」を意識した支援が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(祭典事など)への参加に心がけている。外出時の交流や運営推進会議への地域の方の参加も継続して働きかけながら、ホームの行事年3回(夏・冬・敬老会)には御家族の方が同伴して下さっている。友人やご近所様への参加も期待しお誘いしている。管理者は地域の介護事業所や医療連携の会議・研修等の際に交流を心がけている。	周辺に民家が少ないことから、地域の方が参加できる行事や遠足を行って交流を図り、管理者、職員が協力して地域と繋がりが保てるよう努力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	管理者を中心に事業所が「認知症高齢者見守りネット事業」に登録しており「一人ひとりが見守り隊」の協力委員となっている。依頼時の協力や大会参加など情報を得ながら認知症や高齢者の情報提供にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御参加を得るために奇数月の第3木曜日を運営会議日として年間行事に組み入れ、委員、御家族に配布し更に都度ご案内をしている。ご報告後参加の皆様よりご意見や感想をお一人づついただき会議中はその内容で話題や情報が大変広がり直接参考にさせて頂きただけことがある。	写真や資料を使用してホームの現状、取り組みを報告して意見をいただき、運営に活かせるよう情報収集すると共に参加者を通じて情報を発信しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は北秋田市の福祉活動に参加協力しながらグループホーム(認知症対応型共同生活介護)の実態や実情を報告しながら理解していただけるように努めている。市の介護保険班主催の講演や学習機会にも積極的に参加し意見交換に努めている。	市の福祉活動や研修等に管理者が講師として積極的に参加しており、協力関係が築かれています。その活動を通して地域への周知にも繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年一回は定例の学習会に組み込み、「拘束となる具体的な行為」を熟知する大切さを含めカンファレンスや申し送りの際など職員への周知徹底に努めている。又施錠についても時には出入り口のセンサーを活用しながら安全を重視し施錠しないようにしている。	利用者の状態把握に努め、職員間で検討、工夫をしながら身体拘束をしない取り組みが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回は定例の学習会に組み込み、「虐待となる具体的な行為」を熟知する大切さを含めカンファレンスや申し送りの際など提案している。又、職員が必ず目にする場所へ「虐待」に関する掲示をし職員への周知徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の習得した知識を学習会などを通じて伝達し「日常生活自立支援事業・成年後見制度」については資料を基に年一回定例の学習会に組み込んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居対象になられた方及び御家族との面談や見学などをお勧めしたりし時間をかけ納得いただけるように努め御理解いただいている。更に契約時には文書を確認していただきながら分かりやすく説明するように心がけている。改定時においてもご理解後同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情箱」を設置し御相談を受ける体制を作っている。又、御面会時などお見送りしながら御家族だけとの時間も作り出しし出しやすいように心がけている。利用者からは日常の会話を大切に思いを伺ったり図れるように努めている。法人本部からも請求書と共に意見・要望の受付文書を送っている。	利用者からは日々の会話から、家族からは面会時や行事の際に状況を伝えて意見を引き出す工夫をし、運営に反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員の意見は大切にするように心がけ、更に月一回のカンファレンスでは「連絡事項・業務検討」の項目を作り一人一人意見をもらう様にしている。代表が来所することもあるが、その他に本部職員参加のリーダー会議で検討した内容を代表に報告していただいている。	管理者を通じて職員の要望が法人本部に伝えられている他、利用者の安全な生活環境を整えるために職員間で意見を出し合って反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の処遇改善を行い職員のスキルアップに心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修(カンファレンス含む)を月一回(2時間)行い「知識・技術」の向上を図っている。受け持ち制をとっている事よりモニタリングをする際の進捗を各自が行う事でスキルアップに貢献できていると感じ、学習会においては職員自らの自己評価と管理者評価を毎月記録とし残している。外部研修の予定等の情報が入り次第職員へ提示し勧めしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者が地域の介護に関わる委員会に参加する機会を多く持たせるよう取り計らっている。又、職員は介護従事者の自覚を持ち日常的に地域の方々との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者はサービスを導入する段階で家族、担当ケアマネージャーよりお話を伺った情報から、センター方式でアセスメントをし、職員とも情報を共有するためのモニタリング・更にプランを準備し、入居と共に即プランが実施ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の意向の確認を取らせていただく際より会話でも良い関係ができることを期待し対応している。御本人との面談にはなるべく同席していただき面談後は御家族様だけとお話する時間を作り初期計画に取り入れる内容の聴取に努めている。入居日の契約説明などの際ではプランを提示し御意向の確認をしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を持っていただけるように「あいさつ・声かけ・スキミング」など本人の好みを掴み係られるようにしている。又御本人の能力ややる気に合わせた共同作業などに心がけている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の毎日の様子や行事の際の様子など面会時にお伝えするように心がけ、運営推進会議の議事録と「北欧の里掲示板」「バンドー通信」で写真や行事のお誘いなど共に本人を支えていく関係を築いている。運営推進会議やホーム行事への参加も御協力いただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加や通院中の待ち合いでの知り合いの方との接触など大切にしている。ホームの行事参加は御家族のみならずお身内やお友達も可能にしており参加を得ている。ご希望の美容院にも出かけることもあり、更に地元の理容師・美容師も定着し来訪中心にお世話になっている。(ここでの馴染みづくり)	これまで関わりのあった方との関係継続に努めている他、受診時や通りがかりに立ち寄ってくれる方もあり、ボランティアの方が知り合いであったことから新たな馴染みもでき、入居してからの関係も大切にしています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーション・行事参加をお誘いしながら「共有できる事」に努めている。又その作業が直接他者への支援になるようなこと(下膳・テーブル拭き・洗濯物の運びなど)を行い、他者との協調性や信頼関係が期待できると感じ対応している。お名前確認をしながら、お薬の手渡しなども継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の移動後の状況を伺ったりお困りの事がないかなど連絡を取っている。退去時に御家族様へも今後も遠慮なく御相談していただいてよい事を伝えており、その後のお付き合いも継続している方がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何か選択肢(調味料の種類・着衣・作業やレクへの参加等)があるような場合は、御本人より直接希望していただけるようにしている。会話や表情などからうかがえることもある事を気にかけて対応している。	日常の中で利用者が希望を言いやすいように会話の仕方に工夫している他、入浴時の会話も思いを知る良い機会ととらえて意向が把握できるよう努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から居宅支援事業所・御家族との連絡を密にとり御本人の情報収集に努めている。早目に入居時の「個人情報」を作成、アセスメントをもとに御本人が希望されている内容が把握ができるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が穏やかに過ごされているかを、会話や食事摂取量・睡眠・排泄状況・バイタルチェックなどで把握に努めている。毎日の申し送りやショートカンファレンスでの個人の状況把握も大切にし日々の変化に気をつけながら変化があった際は即適切な対応ができるように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の御意向を取り込んだ計画作成を心がけ取り組んでいる。更に受け持ち介護者がカンファレンスにおいてモニタリング時期には自身で作成したモニタリングを元に皆から意見や情報をいただきながら作成しており介護計画に反映できるようにしている。	担当制にしていますが、現状に即した介護計画となるようカンファレンスでは全職員が意見を出し合っています。	モニタリングが介護計画に効果的に反映できるよう記載の仕方に工夫されることを期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「暮らしのシート」記録の内容の充実を図り、業務日誌での継続した関わりの必要な事柄が伝達され、職員全員が情報を共有できるように努め実践・計画の見直しに生かしている。更に、ファイルの内容の充実にも努め管理を厳重にしながらも皆が見やすい場所への保管をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加を心がけ、又運営推進会御参加の皆様からの御意見や行事参加いただき交流の機会を沢山持つことができている。又、管理者が看護師である事より医療機関との関わりも強く本人・ご家族の意向を考慮した相談ができるようになっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の他に、医療協力機関として内科クリニック、歯科医との契約が取られており、薬局においても地域薬局と近所の薬局との二か所と連携がとれている。看護師が常勤している事で、適切な医療連携が取れ、医療の内容を把握でき、本人・家族に伝え今後の相談ができるようになっている。	利用者個々のかかりつけ医で受診されています。協力医との連携も図られ、看護師である管理者が適切に対応しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師・計画作成担当者である事より状態報告は24時間連絡がとれるようにしている。又、看護師不在時の場合でも、適切な報告が出来る様に「観察マニュアル」に沿って得た情報を報告する事で適切なアドバイスが可能になっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が地元の医療機関に長く勤務していた看護師であり、その人脈を活用し専門的把握の元、本人・家族の意向を重んじた申し出ができるようになっている。看護協会員として地域の医療的会議の委員や他看護師との接触があり連携を構築できている事より現状に合った対応が期待できるようになっている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や看取りに関する指針を定め、更に看取りに関しては医療機関、御家族との話し合いを十分持ち方針を共有している。職員間でも高齢者に起こりうる急なことも含め学習に取り入れている。7月に96歳の方で「入院による延命処置」を御家族が望まない事より経口摂取ができなくなるまでの1ヶ月間程御家族の協力も得ながらホームで看病した方がいる。	職員は方針を共有し、家族の意向に沿って支援できるよう取り組んでいます。家族の宿泊にも対応されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者中心に対応しているが、不在時も正しく適切に情報を報告し指示をもらえるように「報告マニュアル」を活用している。応急処置の仕方を習得するため業務の中はもちろん、定期的(毎年)に「救命講習」を受講している。正しいバイタルチェックの習得に努めている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議に消防署長や交番所長の参加が叶っており会議の際、避難口や防火に関する点検をしていただいている。又、年2回の避難訓練では消防隊員の立ち合いの元、ご近所の方やご家族・推進会議の委員方等の参加など充実を図っている	夜間は宿直職員と2人体制であり、隣接する企業では夜間も職員が常駐していることから緊急時には協力が得られることになっており、訓練にも参加していただいています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の特徴や好みの声かけ・言葉遣いを心がけており、馴れ合い過ぎる言葉かけにならないように努め、何より「いきすぎた干渉」にならないようにしている。又、個人情報となるファイルの保管・管理を厳重にして個人情報保護も留意している。	利用者一人ひとりの状態を把握し、それぞれに合った声かけの仕方や接し方に気を付けています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい存在であるためには、安心できる人間関係の構築を目指し努力している。何より本人の理解度に合わせた係わりが大切と考え、否定的なやり取りや押しつけるようなことのないようにしており、衣類の選択・調味料の好み等も伺う様にしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・起床・食事・ティータイム・おやつ・入浴など一応決まった時間帯でお誘いしているが御本人の都合や希望次第では時間移動や変更も可能としている。他行事や作業・レクリエーション等も内容をお伝えしながら伺い、無理ない参加をさせていただいている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自身の望まれることは叶えるように努めている。(目的や季節に合った衣類の選択も含め)外出時には帽子やバックの使用も声掛けしている。起床時・就寝時に保湿クリームや乳液をつける方には切らさない様に考慮している。洗面所にヘアブラシも常備している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも同伴し皆で会話を持ちながらいただくようにしている。職員も食事中の話題提供の為副食を味見させていただきながら食事に参加している。又、食材の下準備や下膳・食器拭き・おしぼり干しなど作業にも参加してもらっている。自家製の野菜などは収穫・土払いから下準備に参加していただいている。	畑作業ができる利用者は少なくなってきましたが、収穫した野菜や行事食の献立が食事の際の話題作りに役立っています。職員は弁当持参ですが同じテーブルに着いて見守り、さりげない介助が行われています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士にカロリーチェックを含め一週間分のメニュー(写真付き)と食材の種類や量を提出し評価アドバイスをいただいている。特食(咀嚼不十分・摂食障害・高血圧・肥満等)も考慮。更に毎日の食事摂取量の観察記載、水分の摂取量のチェック。月一回及び必要に応じての体重・BMIの測定など行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯の清掃及び就寝前に義歯洗浄剤に一晩浸けることなど、本人が嫌がらない限り実施している。又、必要に応じて義歯及び口腔内の点検に協力医療機関の歯科医師がおり、通院でも訪問でも対応してくれている。(嚥下訓練もレクで取り入れ実施している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄失敗時など失意しないように周囲に悟られない処理の仕方に留意している。失禁対応として時間誘導や排泄時の見守り強化などおこない、おむつ類の使用減少に努めている。夜間のポータブルトイレの設置なども本人了解の元行っている。	排泄用品を使用している方も多く、時間誘導等で失敗の軽減及び費用負担の軽減に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的な「便秘」に関しては医師との相談で緩下剤を処方いただき、排便の状況に合わせ柔軟に量の変更をし調整している。経口的には「野菜・水分・果物・牛乳」など取り入れるようにしている。腹部のマッサージや毎日の廊下散歩などもお勧めしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けているがその他にも足浴だけ行う日も設定している。午前中の設定にしながらも受診や面会・御本人の希望に合わせて便宜している。陰部の臭いが強い時は陰部洗浄も適宜行っている。外作業や発汗の多かった日などは適宜入浴やシャワー等お誘いしている。	入浴日が決まっており、拒否される方もおりますが、保清が保てるよう誘導の仕方を工夫して入浴していただいています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後30分以上は横にならないように心がけているが昼午睡・居室で過ごす時間・就寝時間など本人の希望に合わせて自由にしていただいている。夕食を終了すると就寝したくなる方が多いので御本人達の行動に合わせて就寝準備などしつつ、ホールで眠くなるまで過ごす方にはお付き合いなどしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はファイルに綴っており、その薬効や副作用など記載されており常時職員は見られるようにしている。又、月一回のカンファレンスにおいては管理者である看護師より個々の「健康状態報告」で通院状況や状態報告・今後の予定など報告されている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お天気に合わせての庭散歩や外作業(畑・草取り・洗たく干し)へのお誘い・又は山菜取りやその下処理・地域の行事への参加などその方の興味ある内容を探りながら関わっている。屋内でのレクリエーションやアクティビティにも皆で参加できる内容を加味し行っている。通院時には帰所前にドライブにもお誘いしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御自分から外出を希望される方は少ない中、天気の良い日などホーム庭での食事会・周辺散策をお誘いしている。通院時のドライブも大切にしている。年間行事の「花見や紅葉見学」等は御家族もお誘っており計画時は行きたい場所など話題にしながら話に花を咲かせている。お盆の墓参りや御主人の法要などは御家族の協力をもらい外出されるように支援している。	冬は積雪が多く、外出し難いということはありませんが、他の季節には家族にも声をかけて皆で外出している他、利用者同士が誘い合って周辺を散歩しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は現在おらず管理者がお預かりしている。その中から、通院や消耗品の他、御本人のご希望の物を購入している。御本人と出かけた際など少額であれば見守りながらレジで支払う体験などしていただいている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望に合わせて通信援助をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居室の床下には備長炭が敷き詰められており消臭効果が期待できている湿度計に添った温度の維持、常時加湿器稼働による空気洗浄なども心掛けている。又季節折々の行事に合わせ「切り絵」の張り物や他飾り物など工夫し話題にしている。又季節や行事に合った手習いも行っている。日中多く過ごされるホールの環境作りには特に心がけている。	冬季の乾燥防止のための対策をし、また、既存の建物をホームとして利用しているため安全に過ごせるよう随所に工夫がみられます。職員の特技を活かした切り絵の装飾で季節感を取り入れています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	散歩コースの廊下奥にはイスなど置き、散歩後休憩しながら入居者同士で談話できるようにしている。又、正面玄関や裏の出入り口の長椅子等も温かい時期は外を眺めながらの憩いの場所となっている。長い廊下を利用しジャンケン散歩の他ゲームなども行っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望の物は何時でもお持ちいただけるようにしているが殆んど押入れに収納してしまう方もおりその整理整頓は特に気を付けながら受け持ち介護者が行っている。テレビのアンテナラインも各室引かれており希望の方は視聴する事ができる。遺影なども持参していただけるようにしているが現在は持参者なし。	収納スペースがあるせいか、どの部屋も整然と片付いており、ベッドには立ち上がり補助具が付けられて安全に過ごせる環境となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所・浴室は分かりやすい様に表記しており、居室入口にも自分の部屋と分かるようにご希望に合わせて写真や名札をつけている。場所を周知できない方には自尊心を傷つけないように覚えていただけるような誘導に心がけている。ホールの自席を迷われる方への誘導は他者への影響を気にしている。		